

企業名： 富士電機

レポート名： 富士電機レポート 2021

1. この会社が目指す姿が理解できるか

富士電機レポート 2021 の初めに経営理念・経営方針・企業行動基準が示されており、どのような考え、目標の下で経営が行われているかが簡潔に理解できる。また、各事業と SDGs の関係性について写真を多用して示しており、目指す姿を理解するのに役立った。さらに、社長のメッセージや 2023 年度中期経営計画からも富士電機の本旨を読み取ることができる。

2. この会社の競争優位性が理解できるか

各事業と SDGs の関係を表している部分では現在の時点でどのように SDGs の発展、持続可能な社会の実現に貢献していることを示しており、富士電機が社会にどのような価値を創造しているかを理解することが出来る。2020 年度、2021 年度の概況では財務情報や事業の取り組みからも富士電機が創造している価値を理解できる。一方で、同業界との関係や比較を読み取ることは難しく、真にこの会社の競争優位性が理解できたとは言い難い。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

最先端のデジタル技術や科学技術をサービスに変えて顧客価値、社会貢献をする業種であるため、現在の競争優位性の持続は今後の研究開発に大きく影響されると言える。富士電機レポート 2021 には研究開発についても書かれており、そこでは 10 年先を見据えた社会課題の解決を起点とした研究、マーケティングが行われていると読み取ることが出来、持続性を理解することが出来た。しかし、20 年後などさらに先の社会課題については予想が難しいためか触れられておらず、より先の競争優位性に持続性があるかどうかは経営理念・経営方針などから判断するほかにないと感じた。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

人的資本の価値向上について富士電機レポート 2021 の中には理解しやすい具体的な表記を見つけることが出来なかった。しかし、人財については人権尊重、女性活躍推進、60 歳以上の社員の処遇見直し、障がい者活躍推進、働き方改革、次世代経営人財育成と多くの項目について記載があり、人財を重要視していることが読み取れた。

5. 報告書にはどのような改善余地があるか

富士電機レポート 2021 は会社の将来性をよく示しており、現在の状況を示すことで競争優位性とその持続性を伝えることが出来ているように思った。しかし、改善点として10年よりも先の競争優位性をより示すことや、同業界の企業との関係、比較を示す、人的資本の価値向上について示すなどが挙げられると感じた。